

## 子育てに生かしたい「四訓」①

「子育て四訓」というものを聞いたことがありますか？これは、山口県のある教育者が示した、子供に対する親の距離感の目安ともなるものです。成長段階に応じたアドバイスとして子育てに役立つ「四訓」とは、どんなものなのでしょう？

子育ての「四訓」とは？

子育ての「四訓」とは、乳児期、幼児期、少年期、青年期それぞれの発達段階で、親がどの程度の距離感で接するのが理想的かを示したものです。同じような教えは、アメリカインディアンにも見られるそうです。

過干渉にならず、でも必要などころではしっかりと支えていくという考え方は、子育てに悩んだり迷ったりしたときに、大いに役に立つのではないかと思います？特に、子供が小さいころに比べると、子育てに熱心ではなくなってくるかもしれませんが、問題も多くなり悩みが増える思春期の子供を持つ方にも、ぜひ知っておいてもらいたい言葉です。

### 《四訓①》◆乳児はしっかり 肌を離すな◆

「四訓」の最初は、乳児に対する接し方です。特に初めての子育てではわからないことが多く、本やネットの情報に振り回されがちです。でも、相手は子供。自分の時間も思うようにとることができず、思い通りにならない毎日の中で、不安がつのり鬱になるお母さんも多いものです。

そんな時期へのアドバイスが「乳児はしっかり 肌を離すな」です。お母さんのお腹の中という安心できる場所からこの世に生まれてまだ日の浅い赤ちゃんは、不安を感じています。そんな時、お母さんや信頼できる人に抱っこされることで、安心することができるのです。

だからといって、四六時中、抱っこしているというわけではありません。赤ちゃんが不安になって泣いたときにそばに行って声をかけてあげたり、優しく抱っこしてあげたりということが、赤ちゃんに安心感をもたらします。

この時期は、肌と肌が触れ合い、赤ちゃんをしっかり守ってあげることが大切な時期。この時期に守られているという安心感を覚えることで、人への信頼感が育っていきます。